

て致仕を請ふ時は、前知行の全部を嗣子に譲るものと、その一部を隠居料として保留を請ふものとある。後者の場合に在つては逝去の後その致仕料を嗣子の知行に併せられる。又特に功勞のあつた者にあつては、知行全部を譲渡して、別に隠居料を興へられることがあり、その隠居料は死後嗣子の知行に併すことと、藩に没收することとがあつた。隠居料は又單に料と書かれてゐることもある。これは料知の意味で、知行に對するものである。

インシドウケン 隱之道類 曹洞宗の僧。金澤の人、藤岡氏。八歳京師に入つて木下順庵に學び、十三歳郷に歸つて道心を發し、十九歳攝津禪定寺に月舟に従ひ、後諸宿徳に歴參し、元祿九年加賀の大乗に監寺となつて、卅山に入室面受し、次いで下總東昌寺・武藏瑞光寺・美濃妙應寺に住し、享保十四年七月廿一日瑞光寺に寂した。世壽六十七。語録十卷の著がある。

インシマイ 印紙米 藏宿に於いて、市民の飯米を供給するが爲に、給人の發行した拂米切手を切り代へ、小額の預券を發行して米小賣商に賣出したものをいふ。この預券は、米場に於ける賣買の目的に供せられることもあつた。

インシユウ 寅嘯 ↓ホクガンインシユウ 北巖寅嘯。
インシヨウジ 印勝寺 鹿島郡小島に在つて、日蓮宗に屬する。山號は寶泉山。寺記に天文十七年京都本禪寺日道の草創とする。
インジヨウジ 因乘寺 江沼郡庄にあつて、眞宗東派に屬し、金地山と號する。爰憩紀聞に、この村に因乘寺といふ一向宗の寺があ

る。昔は眞言宗で、山號を桃林山といふ。この附近古へ湖水であつた時龍神から相傳したといふ安産の藥を出すところ。
インズイジ 因隨寺 江沼郡橋立にあつて、眞宗東派に屬する。もと大聖寺町願成寺の末寺であつたが、明治元年獨立した。

インソウジ 因宗寺 羽咋郡里本江に在つて、眞宗東派に屬する。
インタクジ 因託寺 河北郡外日角に在つて、眞宗東派に屬する。

インデン 因傳 眞言宗の僧。初め金澤寶泉坊達傳の弟子で、後に小松愛宕の養福院に住し、更に河北郡俱利伽羅の長樂寺に移つた。元祿十年八月朔日遷化。
イントクジ 因徳寺 金澤野町にあつて、眞宗東派に屬する。寺記に、當寺の開基は石川郡四十萬村善性寺の次男敬惠で、寺地は慶長十二年前田利長から賜はつたものと刑場跡であると見える。

インナイ 印内 能美郡板津郷に屬する部落。
インナイ 印内 羽咋郡土田庄に屬する部落。能登名跡志に、『印内村・矢田村・栗山村三ヶ所は紙漉所なり。』とある。

インナイ 院内 鹿島郡下に屬する小字。
インナイ 院内 鳳至郡山田郷に屬する部落。枝村に桂山及び町がある。この村は西安寺村の川向かひで、もと最安寺の院内であつたといふ。明治八年十月院内・西安寺・八田三村が、家建耕地混淆して一村の体であるから、合併して瑞穂と稱することにした。

インナイ 院内 鳳至郡西大野の内の小字。
インナイ 院内 鳳至郡長井の内の小字。

インナイジヨウ 院内城 鳳至郡西院内の八幡社地がその城址であるといふ。越登賀三州志には、『院内村に城迹有て、山田秀次といふ者城主の由、文化十四年邑長書出せり。但愚按、里村・漣田村・院内村皆隣邑なり。此間に三迹あるは不審也。』とある。

インネンジ 因念寺 鳳至郡宇出津に在つて、眞宗東派に屬する。山號は鳳明山。
インヤクジンジャ 印鑰神社 鹿島郡七尾に鎮座する。式内等舊社記に、『印鑰神社。府中村鎮座。稱『印鑰明神。舊社也。』とあり、又能登名跡志には、『松尾山神宮寺は、印鑰大明神とて御神躰は多門天也。今別當最勝坊は眞言宗の妻帯也。』と見える。

インロウウシ 印籠石 白山御前岳の南斜面なる萬歳谷・畜生谷及び四塚山方面に多く、角閃安山岩の分解して成つた角閃石である。長さ二種、幅一種許。形状の似たるを以て地方人は印籠石と名づける。

ウ

ウオード 明治三年伍堂卓爾が英京倫敦に在留中、金澤藩の命によつて、英人語學教師リッテル・ウオードを招聘することを契約した。因つてウオードは我が邦に渡航したが、明治四年三月六日大聖寺に着して痲瘡に罹り歿した。歳三十。藩乃ち同地の郊外出村山に葬り、七月碑を建て、その事を記した。
ウカガハ 宇加川 鳳至郡諸橋郷に屬する

部落。上宇加川・下宇加川の二所に分かれる。今俗に沖波・前波と共に諸橋と稱する。能登名跡志に、『古君より五六町浦傳ひに宇加川村とてあり。』と記する。
ウカガハ 鶴ヶ川 ↓ヤマタニガハ 山谷川。

ウカヅカ 宇加塚 鳳至郡上町野郷に屬する部落。能登名跡志に、『宇出津より一里に宇加塚村あり。昔天台宗の大寺ありて、此の郷を寺領せしといひて舊跡あり。常蓮坊・大藏坊など、七坊の跡あり。經塚・錢塚・鎮守の跡・宇加塚・比丘寺・公家の谷内等の名も、皆その舊跡といへり。』とある。

ウカツカタウゲ 宇加塚峠 鳳至郡藤波から宇加塚に越える峠。高さ一六〇米。
ウカノミタマ 宇迦能美多麻 一册。狩谷鷹友著。我が國人が本来一日二食なることを論じたもの。和泉守源三春の序がある。

ウカハ 温河 ↓ユウセンジ 涌泉寺。
ウカハ 鶴川 能美郡徳橋郷に屬する部落。往古はこゝに涌泉寺があつたのであらうが、後世鶴川・遊泉寺二部落となつてゐる。
ウカハ 鶴川 能美郡鶴川部落を流れる。源は佛大寺より出で、下は梯川に落合ふ。

ウカハ 鶴川 鳳至郡諸橋郷に屬する部落。承久三年注進の能登國田數目録にも鶴河村の名が見える。能登名跡志には、『家數二百軒許、町作のよき所也。則町中へ鶴川といふ川流入りて、往來に長十五間の橋あり。此川は山田の郷龍村山より流れて、湊まで三里餘、舟出入して商家獵師あり。繁昌なる所也。十村役あり。多田氏ありしが、今中絶して北村氏勤役せり。日比氏に反魂丹の名藥あり。鍛